



## 十勝のクラブマン最終戦は各クラスでタイトル争いが白熱

### 台

風24号が接近する中で行われた北海道クラブマンカップの今季最終戦は、曇り空の予選から始まった。

第4戦は4つのカテゴリーが全てダブルヘッダーとなり、シリーズチャンピオンの行方は、第1レースで無理をせず走り切り、第2レースでもしっかりと残した結果如何で左右されることとなる。

Netz-cup Vitzレースでは、静岡から参加のNo150赤堀康裕選手が第1／第2レースともPPを獲得。2番手も大分から参加のNo50

三浦康司選手が獲得した。北海道勢では、地元帯広出身のオリンピックスピードスケート金メダリスト No361清水宏保選手が予選4位／3位を獲得した。

第1レースは小雨となり、スタートからNo150赤堀選手が逃げ、No50三浦選手が追う展開で2位以下を引き離しそのままフィニッシュ。ポイントリーダーのNo16橋本元選手は4位フィニッシュだったが、十分なリードを保っている。

VITA-01レースは、過去最高の15台がエ

ントリー。PPからスタートした No610佐藤元春選手は2番手以下を大きく引き離しトップを快走、途中セーフティーカーが入り2番手との差が無くなるが、そこから再度ペースアップしトップフィニッシュを飾った。

「今までマシントラブルが重なり苦勞してきましたが、ようやく思い通りのマシンで気持ちよく走ることができました」と佐藤選手は笑顔の表彰台だった。そして2位入賞のNo11今野訓昌選手が今シーズンのチャンピオンを獲得。「狙い通りのチャンピオン獲得です。今年は2



1. ヴィッツレースRace1で優勝の赤堀康裕選手。Race2でも2位に入賞。シリーズポイントも首位に並んだが、規定により2位に甘んじることに。2,3.SAURUS Jr. Race1,2ともに優勝の阿部晃太選手。まだ19歳という新鋭だ。



4. ヴィッツレースRace2で表彰台獲得の3選手。5.N1-1000 Race1で表彰台獲得の3選手。6.VITA-01 Race2で表彰台獲得の3選手。7. ヴィッツレースRace1で3位入賞の小島武選手。8. N1-1000Race1で3位入賞の安藤義明選手。9. VITA-01 Race1で2位入賞の今野訓昌選手。10.VITA-01 Race1、2とともに3位入賞の平中繁延選手。11.N1-1000Race2で3位入賞の鹿内邦宜選手。12. ヴィッツレースRace2で3位入賞の阿部晃久選手。13. ヴィッツレースRace2で優勝の三浦康司選手。14. N1-1000Race1で優勝の中村高幸選手。15.N1-1000Race2で優勝の松橋智史選手。16.VITA-01 Race2で優勝の竹谷和浩選手。17.VITA-01 Race1で優勝の佐藤元春選手。18. サーキットトライアル(CT) TB-2クラス優勝の小野寺俊選手。19. CT TB-3クラス優勝の川西皓樹選手。20.CT TB-1クラス優勝の樋口智哉選手。21.CT 総合首位でC-4クラス優勝の馬渡俊夫選手。22.CT TB-4クラス優勝の笠原康彦選手。



勝りましたが、上位ポイントを取りこぼさないように気をつけました」とニコリ。

Netz cup Vitz第2レースは雨が多くなるという難しいコンディションの中、No150赤堀選手が序盤リードするが、レース後半でNo50三浦選手がトップを奪うとベストラップを出しながら2位以下に4秒以上の差をつけて優勝。

「十勝のウェット路面は初めてだったので、第1レースは無理せず、慣れてきた第2レースでプッシュしました。明日は気持ちよく札幌で仕事ができます(笑)」と大分から北海道に遠征してきたビジネスマンとしての顔を覗かせた。No16橋本選手は、他車の接触に巻き込まれリタイヤとなり、2位入賞のNo150赤堀選手と同ポイントとなったが、優勝回数が多い橋本選手が2018年のシリーズチャンピオンとなった。

VITA-01第2レースは、2番グリッドのNo712竹谷和浩選手がレース中盤でトップに立ち、そのまま初優勝。

「初めての表彰台が一番高いところなんてビックリです。練習走行がいつも雨だったのが幸いしたかな…」と振り返った。

Saurus-Jrでは、レースを始めて2年目の19歳、No135阿部晃久選手が第1/第2レースを連勝し初のチャンピオン獲得。

「雨は自信有りました。父から順位より楽しんでこい!と言われたので、気持ち以案に走れたのもあったかも…」と、同日 Netz-cup Vitz第2レースで3位表彰台に上がったNo135阿部晃久選手と親子で喜びを噛み締めた。

N1-1000レースは、ポイントリーダーのNo890中村高幸選手が第1レースで優勝、第2レースも2位となり、危なげない走りでもシリーズチャンピオンを決めた。

北海道クラブマンカップと同日開催の十勝サーキットトライアル第3戦には9台が参加。雨が降り続く難しいコンディションの中、トップタイムをマークしたのはNo11馬渡俊夫選手。「普段乗ってる車で気軽に参加できるサーキットトライアルは、僕にとって最適のモータースポーツですね。函館から十勝までの道のりも、長男とのドライブで楽しめますから」と、家族と一緒にモータースポーツを楽しむ姿が印象的だった。